



戦争をさせない
Anti-War Committee of 1000
1000人委員会

1000人委員会ニュース
NO.46
(2016年6月22日)
〒101-0063 東京都千代田区
神田淡路町 1-15 塚崎ビル三階
TEL03-3526-2920
FAX03-3526-2921

沖縄県民大会と呼応 いのちと平和のための6・19行動 国会前集會に1万人

挨拶する清水雅彦 1000人委員会事務局長代行。



沖縄県うるま市で発生した元海兵隊・米軍属による女性暴行殺害事件に抗議し、海兵隊の撤退を求める沖縄県民集會に呼応する集會が、国会正門前で開催され1万人が参加しました。

現地沖縄の6万5千人県民大会に呼応し 被害者追悼、海兵隊の撤退を求める

集會は、まず、犠牲となった女性への哀悼の意を表すため一分間の黙祷を行い、主催者を代表して外間三枝子さん(「止めよう! 辺野古埋立て」国会包囲実行委員会)が挨拶。「戦後71年、沖縄は本土とは違う戦後を歩んできた。60年前も6歳の子どもが米兵に殺され基地のごみ箱に捨てられた。沖縄は、今もこんな過去とともに生きている。女性が殺されても何も言えない、地位協定の改定も言い

出せない。こんなにも惨めで醜悪な政権はない。日本をもっと変えるためにできることをやっぺいこう!」と訴えました。

オール沖縄會議を代表して沖縄平和運動センター事務局長の大城悟さんは、「戦後、米軍による凶悪事件は571件発生してきた。基地がある限り、こんな事件は小手先の対策ではなくなる。沖縄の未来のため、子どもたちのため、基地のない平和な沖縄を作るため、全国の皆さんと連帯を強めながら、安倍政権と対峙していく」と決意を述べました。



政党からは、民進党の初鹿明博衆議院議員、共産党の田村智子副委員長、社民党の吉田忠智党首が連帯の挨拶。それぞれ、共にたたかう決意を述べました。

また、沖縄の県民大会での翁長県知事の挨拶が同時中継で流され、「このような事件が二度と起きないよう、県民の先頭になって、地位協定の抜本的見直し、海兵隊の撤退・削減、基地の整理・縮小、辺野古新基地建設阻止に取り組む不退転の決意をここに表明する」との発言に大きな拍手がわきました。

次に作家の落合恵子さんが登壇、「20歳の女性が殺されたその瞬間、どんな屈辱の中にいたのか、みんなが考え、想像しよう、戦場では女性は支配の対象であり差別・レイプの対象であることを忘れてはならない。ずっと続いてきた事件は沖縄だけではなく、私たちのテーマにしなければならない。沖縄にこんな苦しみをずっと押し付けてきた政治家を落選させよう。これが沖縄との連帯の証だ」と訴えました。



また、沖縄・一坪反戦地主会関東ブロックの青木初子さん、1000人委員会の清水雅彦さん（日体大教授）、共同センターの小田川義和さんが連帯の挨拶をしました。

次に、9条を壊すな！実行委員会の高田健さんが行動提起をし、「沖縄の問題もわれわれが直面する社会の問題も諸悪の根源は安倍内閣だ。野党共闘を活かして、何としても安倍政権を打倒するため、頑張り抜こう。」と提起しました。

最後に、菱山南帆子さん（9条を壊すな！実行委員会）のコールで、「女性殺害徹底糾弾！」「命は宝」「海兵隊は今すぐ出ていけ！」「安倍内閣は直ちに退陣！」等を全員で叫んで集会を終えました。



6月19日、有楽町で 市民連合が野党党首と街頭宣伝 野党共闘と市民の力で参院選勝利へ



6月19日、10時45分から、市民連合（安保法制の廃止と立憲主義の回復を求める市民連合）は、野党党首らと参院選の勝利を訴えるべく、有楽町イトシア前で街頭宣伝活動を行いました。約4千人の聴衆の前で、市民と野党共闘の力で自公とその補完勢力を少数に追い込み、安倍政権を打倒することを訴えました。

時代の分岐点・分かれ道 市民の力で政治を社会を変えよう

この日の街頭宣伝行動には、生活の党の小沢一郎代表が急遽葬儀参列のため欠席したものの、民進党の岡田克也代表、共産党の志位和夫委員長、社民党の吉田忠智党首が出席。SEALDsの奥田愛基さんの司会で進行し、まず、市民連合を代表して山口二郎法政大学教授（学者の会）が挨拶。「野党共闘と市民の力を合わせて憲法違反の政策を進める安倍政権打倒のたたかいをすすめよう」と呼びかけました。

次に登壇したのは**社民党の吉田党首**。「安倍政権の政策の多くが国民の半数以上が反対している。安倍政治を変えるには、32の一人区で勝利し、自公政権を過半数割れに追い込もう！」と訴えました。



共産党の志位委員長、「野党共闘は希望であり、画期的なたたかいだ。市民の力で一人区の32選挙区で勝ち抜き、自公とその補完勢力を少数に追い込み、安倍政権を打倒しよう！」と呼びかけました。



次に、**民進党の岡田代表**は、「参院選は戦後最も重要な選挙で、いよいよ本番だ。時代の大きな分岐点、分かれ道、ここで道を誤ると、もう後戻りできないかもしれない。この危機感を共有して、次の世代のためにも、ともに勝ち抜こう！」と訴えました。



また、SEALDsの溝江萌子さん、山本雅昭さん、T-nsSOWLの福田龍紀さん、ママの会@埼玉の辻仁美さんらも登壇。それぞれに参院選勝利に向けて市民として全力で頑張り抜く決意を明らかにしました。

【SEALDsの溝江萌子さん、ママの会@埼玉の辻仁美さんの発言要旨】は別紙参照。

また、**総がかり行動実行委員会の高田健さん**が登壇し、「安倍総理は憲法を変えようとずっと言ってきた。しかし、6月に出た自民党の選挙公約集には憲法改正についてはほんの少ししか明記していない。世論調査の結果、憲法改正に反対する声が大きくなっているからだ。これはペテンだ。選挙の前に公約にないことを、選挙後やった秘密保護法や戦争法のように、選挙後は憲法改正を必ずやるはずだ。絶対憲法改悪をさせない、戦争法を廃止させるための選挙にしよう。共に全力を出して頑張りよう！」と訴えました。



SEALDsの 溝江萌子さんの発言要旨

ママの会@埼玉の 辻仁美さんの発言要旨

「今、この社会には、生き辛さを抱えて、それでも生きていかなければならない人がたくさんいます。私の周りにも、経済的理由で大学進学をあきらめた人や、大学に通っても数百万の借金を抱えて社会に出た人がいます。シングルマザーとして朝から晩まで必死に働き、子どもを育てる母親がいます。日々の生活に追われ、精一杯で、政治のことを考える余裕がないという彼女たちの気持ちはよくわかります。



しかし、本当は彼女たちのためにこそ政治はある。ひとりだけでは耐えきれない現実があったとき、その現実を変える術をみんなで考えていく、そのために政治があるのだと私は思います。彼女たちの日々の生活と政治はきりはなせないものです。あるべき未来のために、選挙のために、動き出した人には、政治は自分たち生活そのものなのだという実感があります。これはものすごく強いことだと思います。そんな声が政党を動かし、野党共闘の大きな流れを作りました。今、社会は確実に変わっています。変えたのは、彼らであり、あなたであり、私です。これから10年後、20年後どのような、社会を作っていくのか。ここには希望があります。そしてその始まりが、今度の参院選挙です。一緒に頑張りましょう！

安保法が強行採決された昨年のあの日から、廃止まではできることは何でもやろうと心に決めて行動してきました。そしていよいよ参議院選挙です。私たちの声で、野党共闘が実現。声を上げれば政治は変わるんだと、それは希望になりました。あるとき、高校生から「僕は17歳で選挙権がない、国が変わってしまう大事な選挙なのにすごく悔しい」と言われ、また、ある高校生からは「だれの子どものも殺させないと、僕ら若者のための活動をしてくれて感謝します。僕も選挙権はないけれど、できることを精一杯やっています。参院選で必ず勝ちましょう」と言われ、私は泣きました。彼らから託された想いをつかみ取るために、若者が希望を持てる社会にするために私は選挙に行きます。私の一票で、70年間決めてきた戦争しないことを未来につなぐことができます。子どもが大学に行くのに奨学金という名の多額の借金が抱えずに済む国にすることもできます。一票で、私たちがこれからも自分らしく幸せに生きる権利が保障される憲法を持つ国でいられる。一票で、公約を守らずその責任も取らず新しい判断」と居直る首相を変えることができます。絶対負けられません。改憲勢力の3分の2を絶対取らせない。この選挙を通して、世界を変え、政治を変える力があるのは、私たち一人ひとりであることを体験したいと思います。共に頑張りましょう。



リーフレットの紹介

[いよいよ改憲？緊急事態条項ってなに？]

ご希望の方は、下記まで。送料負担をお願いします。

戦争をさせない1000人委員会

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町1-15 塚崎ビル三階

TEL03-3526-2920 FAX03-3526-2921

